

茨城県陶芸美術館 特別展

PUNK

工芸一魂の救済

プレス・リリース

平成29年4月15日(土)~5月28日(日)



加藤委「サンカクノココロ」2010~16年 撮影：金谷智昭

茨城県陶芸美術館

〒309-1611 茨城県笠間市笠間 2345 番地 (笠間芸術の森公園内)

Tel:0296-70-0011 Fax:0296-70-0012 <http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

1 展覧会名

パンク

PUNK 工芸一魂の救済



2 開催趣旨

A：一言でいうと（133文字）

本展は、富山市の樂翠亭美術館で昨年開催された展覧会の出品作を、一部入れ替える等して改めてご紹介するものです。既成概念にとらわれず、工芸の新しい表現を切り拓く10名の作家を、反骨精神あふれるパンクのスタイルになぞらえ、斬新で力強い作品約80点を紹介します。

B：もう少し丁寧というと（189文字）

本展は、富山市の樂翠亭美術館で昨年開催された展覧会の出品作を、一部入れ替える等して改めてご紹介するものです。PUNK（パンク）とは、1970年代にパンク・ロック音楽の流行を中心に拡大したサブカルチャーの様式を指す言葉ですが、本展は、既成概念にとらわれず、陶芸・漆芸・金工の分野で新しい表現を切り拓く10名の作家の姿勢をパンクになぞらえ、その斬新で力強い作品約80点を紹介します。

C：詳細にいうと（607文字）

平成28年、富山市の樂翠亭美術館において、現代工芸を代表する気鋭の作家による展覧会「PUNK 工芸一魂の救済」（平成28年9月17日（土）～12月6日（火））が開催されました。本展は、そこで展示された作品を一部入れ替える等して、改めてご紹介するものです。

PUNK（パンク）とは、1970年代に生まれたパンク・ロックを中心に発生したサブカルチャーのことで、パンク・ロックの流行と共に、反骨精神の象徴として世界的に広がりました。現在では、反体制的な姿勢そのものをパンクと呼ぶ場合もあります。本展におけるパンクという言葉には、反骨精神を表す一方、現代社会にむけた一種の「起爆剤」としての希望も込められています。今の時代を生き抜く強い力を持つ作家たちが、既成概念にとらわれることなく斬新で尖鋭的な作品を呈示して、“新しい工芸”を生み出そうとする姿勢は、まさにパンクと言えるでしょう。確かな技術を持つ彼らが生み出す作品は、現代における工芸の可能性を広げていると言っても過言ではありません。

本展では、陶芸の伝統的な産地である岐阜県美濃地方で活動する加藤委、若尾経、伊藤秀人、加藤亮太郎、大江憲一、川端健太郎、新里明士、桑田卓郎らの陶芸家たちに、輪島塗の産地である石川県輪島市の漆芸家・角好司と、生まれ育った北海道の雄大な自然を背景に制作を行う金工作家・武田享恵を加えた10名により、進化し続ける現代工芸の魅力を紹介します。

3 展示構成

出品総数 10名の作家による約80点

陶芸：加藤委（かとうつぶさ）、若尾経（わかおけい）、
伊藤秀人（いとうひでひと）、加藤亮太郎（かとうりょうたろう）、
大江憲一（おおえのりかず）、川端健太郎（かわばたけんたろう）、
新里明士（にいさとあきお）、桑田卓郎（くわたたくろう）

漆芸：角好司（かどこうし）

金工：武田享恵（たけだたかえ）

4 主な作品（作品キャプション）

①武田享恵 「tin」2014年 撮影：金谷智昭

- ②加藤委「サンカクノココロ」2010～16年 撮影：金谷智昭
- ③桑田卓郎 左から「埜」「埜」「花入」2009～16年 撮影：金谷智昭
- ④伊藤秀人「練彩大鉢」2016年 撮影：金谷智昭
- ⑤大江憲一「群」2016年 撮影：金谷智昭
- ⑥新里明士「光群」2016年 撮影：金谷智昭
- ⑦若尾経「青瓷俎皿」2013年 当館蔵
- ⑧川端健太郎「女（スプーン）」2014年 当館寄託
- ⑨加藤亮太郎「闕」2016年 撮影：金谷智昭
- ⑩角好司「蒔絵二段小箱 “真夏の夜の夢”」 2011年 撮影：金谷智昭

5 会期・会場等

会 期：平成29年4月15日(土)～5月28日(日) (38日間)
 会 場：茨城県陶芸美術館 地下1階企画展示室
 開館時間：午前9時30分から午後5時まで (入館は午後4時30分まで)
 休 館 日：月曜日 (ただし、5月1日(月)は開館)

6 主催等

主催：茨城県陶芸美術館
 協力：樂翠亭美術館

7 観覧料

一般 310(260)円 高大生 260(210)円 小中生 150(120)円
 ＊()内は20名以上の団体料金。満70歳以上の方、障害者手帳、療育手帳をお持ちの方及び付き添いの方 [ただし1人につき1人まで] は無料。土曜日は高校生以下無料。

8 関連催事 ＊詳細は後日、チラシやホームページ等にてお知らせします。

- オープニングイベント ※展覧会チケットが必要です。
 平成29年4月15日(土) 13:30～14:30 当館1階多目的ホール、地階企画展示室
 ホールでのセレモニーの後、展覧会場にて出品作家と担当学芸員による作品解説を行います。どなたでもご参加いただけます。
 定 員：120名 (先着順)
- シンポジウム
 平成29年5月13日(土) 13:30～15:00 当館1階多目的ホール(聴講無料)
 講 師：加藤委氏、角好司氏、武田享恵氏 (いずれも本展出品作家)
 正村美里氏 (岐阜県美術館 副館長兼学芸部長)、金子賢治 (当館館長)
 定 員：120名 (先着順)
- ギャラリートーク ※展覧会チケットが必要です。
 平成29年4月22日(土)・5月20日(土) 各13:30～

9 連絡先

茨城県陶芸美術館 〒309-1611 笠間市笠間 2345 番地 (笠間芸術の森公園内)
 TEL.0296-70-0011/FAX.0296-70-0012

(展覧会担当) 学芸課 首席学芸主事 安田和人 e-mail : yasuda.kazuhito@blue.ibk.ed.jp
 学芸課 学芸員 名村実和子 e-mail : namura.miwako@post.ibk.ed.jp
 (広報担当) 企画管理課 首席学芸主事 中島 淳 e-mail : kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp

広報担当の E-Mail アドレス kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp までご連絡いただければ、すぐにデータをお送りいたします。写真を掲載する際には“4 主な作品”に記載されている、それぞれの作品キャプション (撮影者クレジット含む) を必ず併記してください。

